

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	MIRAI小松			
○保護者評価実施期間	令和8年2月20日		～	令和8年3月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和8年2月20日		～	令和8年3月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	計画書の支援内容の専門性が高い。	支援ソフトを使用し、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」の各項目をわかりやすくまとめられるようにしています。計画書の作成に関しては専門性を高めるために各項目を各専門職が監修しながら作成しています。	支援内容をさらに充実させるように看護師、機能訓練士、児童指導員それぞれで研修会を行い、専門性の向上や個別性の理解を深めていきます。
2	利用児の個性が理解できている。	看護師や理学療法士が常駐しており医療的なケアや身体機能を専門的に把握できるようにしています。最初は保護者同伴でケアのやり方など支援方法を伺いながら個別性の把握に努めています。	保護者だけでなく、学校など関係各所との連携も高めながら、より一人一人の個性を理解できるように取り組んでいきます。
3	こどもの健康や発達状況について保護者と共通理解ができている。	送迎時の会話や電話、LINE、連絡帳など色々な方法でコミュニケーションを取れるようにしています。支援ソフトにより、保護者は当施設で利用児がどのように過ごしたかを細かく知ることができるようにしています。	今後も保護者とコミュニケーションをとり、保護者のご要望に沿えるように取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がない。	放課後児童クラブや児童館などとの接点がなく交流が難しいと感じています。当施設は重症心身障害児や医療的ケア児がご利用されているため、感染症のリスクなどを考慮し慎重に検討しています。	放課後児童クラブや児童館などと接点を持てるような方法を考えていきたいと思っています。リスク管理を行なった上でどのような方法であれば交流ができそうか検討していきます。
2	家族に対してペアレント・トレーニング等や家族等も参加できる研修会などが無い。	ペアレント・トレーニングを専門的に行える職員がおらず、研修会などの開催に至っていません。研修会での情報提供ではなく、送迎時や計画書説明時などに個別にお話しすることが多いです。	どのような内容の研修を希望されているのかなど、保護者の方のご意見もいただきながら検討していきます。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等がない。きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がない。	学校での交流などもあるため施設での保護者会などは望まないとのことご意見もあり、慎重に検討しています。	個別で家族参観日などがあれば参加して家族が行えるリハビリを学んでみたいといったご意見もあるため、個別での対応などを検討していきたいと思っています。